

# 英語

## 語彙 (問題冊子p.4 ~ p.6)

1

解答

- (1) ① (2) ② (3) ② (4) ③ (5) ②  
(6) ③ (7) ② (8) ② (9) ② (10) ③

解説

- (1) 「髪の毛の長い女の子を見てごらん。」  
「長い髪を持った女の子」というように考える。  
「～を持った」の意味を表すwithの用法に注意。
- (2) 「私は1964年1月29日に生まれた。」  
まずは次の前置詞の用法を確認しておこう。
- 例) I was born **in** January.  
「私は1月に生まれた。」
- ところが、本文の「1964年1月29日」のように、  
特定の日を表す場合や特定の日の朝・午後・晩には**on**がつくのである。
- (3) 「飛行機がタワーの上を飛んでいた。」  
「～の上方を、～を越えて」は**over**, **on**は「(接触して) ~の上に」。
- (4) 「ブラウンさんは、ほぼ5年間香港に住んでいる。」  
①の**during**と③の**for**との違いをしっかりと理解していないと答えは出ない。**during**は特定の期間を意味する語句 (the summer vacationなど) が後ろにきて、意味は「～の間じゅう、～の間に」。**for**は期間の長さを意味する語句 (five years, an hourのように、数詞やsome, fewなどがつくりがポイント) が後ろにきて、意味は「～の間」。
- (5) 「彼は小さな船で太平洋を横断した。」  
平面的なものを横切る場合、**across**を使う。

この場合も、船で渡れば太平洋の表面を横切って渡ることになるので、**sail across the Pacific Ocean**と表す。

(6) 「私は彼女を9時まで(ずっと)待ったが、彼女は来なかった。」

この問題で一番大切なのは②の**by**と③の**till**の違いだ。意味は、**by** (～までに)、**till** (～まで(ずっと)) で、**by**は「期限」を表すのに対して、**till**は「継続」を表す。

(7) 「きみのおじいさんはまだ60歳だって言っていたね。70歳より上に見えたよ。」

文の意味から考えれば、②「70歳より上」が正解になる。年齢の上を表すには**over**, 下は**under**が使われる。**be under 70**ならば「70歳未満」の意味になる。

(8) 「私たちの先生は年の割に大変若く見える。」

**for**は「～にしては、～の割には」という意味。

(9) 「あのお年寄りに席を譲りなさい。」

**give up ... to** ~で「(場所など)を～に譲る、引き渡す」という意味。動作の対象を示す場合、**to**を用いる。

(10) 「父は大統領にちなんで、私をトーマスと名づけた。」

〈**name A B after C**〉で「CにちなんでAをBと名づける」という意味になる。

## 解答

- (1) ③ (2) ① (3) ② (4) ② (5) ③  
 (6) ④ (7) ④ (8) ② (9) ① (10) ①

## 解説

(1) 「すみませんが、駅への道を教えてくださいませんか。」

動詞が入るべき空欄のあとにmeと「人」を表す語がきて、そのあとにthe way to the stationと「物」を表す語句がきている。このことから、空欄には〈動詞+人+物〉の形をとれる動詞しか入らない。②のteach, ③のtellは、〈動詞+人+物〉の形をとれる動詞である。形式だけ見ると、teachもtellも正解になるが、〈teach+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>〉は「(人)に～(学科など)を(時間をかけて)教える」、〈tell+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>〉は、「(人)に～(物事など)を言葉で教える」という意味の違いがある。ここで使えるのは③のtell。

(2) 「あなたの電話をお借りしてもいいですか? ケンに電話をかけたいのです。」

「電話を借りる」は、「借りる」→「使う」と考えるとよい。

(3) 「私たちはこの夏ニューオーリンズを訪れるつもりだ。」

「～するつもりである」という未来に対する意図を表すplan to+動詞の原形を用いる。よって正解は②のto visit。

(4) 「外出するときは戸締まりするのを忘れないでください。」

forgetは目的語にto不定詞と動名詞の両方をとる。ただし、意味が異なるので注意が必要。

〈forget+to不定詞〉…「～するのを忘れる」

〈forget+動名詞〉…「～したことを忘れる」

ここでは「～するのを忘れないで」という意味になるのが適当なので、②が正解。

(5) 「公園に着くと、老人がベンチに横たわっているのに気がついた。」

自動詞lie-lay-lain-lying, 他動詞lay-laid-laid-layingの活用の区別をはっきりさせておこう。①は自動詞lieの過去分詞。find+O+CのCに過去分詞がくる場合、OとCは「OがCされる」と受け身の関係になるが、このときCにくるのは他動詞の過去分詞なのでlainは不可。②は自動詞lieの原形だが、find+O+CのCに原形はこない

ので不可。③は自動詞lieの現在分詞, ④は他動詞layの過去・過去分詞である。the old manとlyingの関係を見ると「老人が横たわっている」の意味なので、③が正解となる。

(6) 「私は、その本を読むのに1か月かかった。」

まず形の上で注意すべきことは、空欄に入れる語を考える際の2つのポイント、つまりa monthという時間表現とing形で書かれたreading...である。ここから基本表現である〈spend+O+(in)～ing(～するのにOを費やす)〉を思い出そう。なお、takeを使った〈It takes+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>+to～.〉という表現もあり、その場合、O<sub>1</sub>には「人」、O<sub>2</sub>には「所要時間」が入る形になる。O<sub>1</sub>は前後関係から明らかであったり、表現の必要がない場合は省かれるが、問題文ではIが主語になっているので、この構文は不可能。

(7) 「いつ会議が行われたのですか。」

通例take placeの形で「予定されたことが決まった場所・時間に行われる」ことを示す。それに対してhappenやoccurは「偶然〔予想に反して〕起こる」ことを暗示する。

(8) 「私はそのかわいい赤ん坊を見て、ほほえまずにはいられなかった。」

helpは「～を避ける」の意味では、後ろに動名詞を従える。cannot help～ingで「～せずにはいられない」の意味になる。

(9) 「その新しいテープレコーダーはたった6,000円だった。」

「(時間が)かかる」を表す場合にはtakeを使うが、「(金額・費用が)かかる」場合にはcostを使う。③neededや④paidを使ってこの文を表す場合、主語をIにする必要がある。

(10) 「私は兄に宿題を手伝ってもらおう。」

getは〈get+O+to不定詞〉の構文をとり、「Oに～してもらう〔させる〕」の意味になる。③は〈let+O+動詞の原形〉で「Oに～させる〔～することを許す〕」。④は〈make+O+動詞の原形〉で「Oに(強制的に)～させる」の意になる。

## 解答

- (1) ③ (2) ② (3) ② (4) ② (5) ④  
 (6) ② (7) ③ (8) ② (9) ①

## 解説

(1) 「その学生はいつも一生懸命勉強する。」

①のhardlyは副詞で「ほとんど～ない」、②のhardenは動詞で「～をかたくする」、③のhardは形容詞で「難しい、かたい」、副詞で「一生懸命に」、④のhardnessは名詞で「かたいこと、つらさ」という意味。よって正解は③の副詞としてのhard。

(2) 「私たちは未来への希望に満ちている。」

be full of～で「～に満ちている、～でいっぱいである」の意味。①filledはbe filled with～の形をとり、be full of～と同じ意味を表す。③fullnessは名詞で「十分、完全」の意味。④fullyは副詞で「十分に、完全に」の意味。

(3) 「その映画を見ただけで、おもしろかったよ。」

andのあとの(I) found it～は第5文型<SVOC>。C(補語)の部分には、形容詞や形容詞としての現在分詞・過去分詞が名詞がくる。

第5文型で大切なのは、OとCの間に「～が…である」の関係があることである。itと②のinterestingの間に「映画が興味を起こさせる(おもしろい)」の関係が成立するのか、itと④のinterestedの間に「映画が興味を持っている」の関係が成立するのかを考えれば、自然なのはitと②のinterestingの関係なので、正解は②。

(4) 「その橋は長さ2.5kmである。」

in lengthで「長さにおいて」。inは「～において、～の点では」の意味。lengthは名詞で「長さ」という意味。①longは形容詞で「長い」、③lengthenは動詞で「～を長くする、のばす」、④longingは名詞で「切望、熱望」の意味。

(5) 「学生たちは皆、彼の素晴らしい演奏に満足した。」

動詞satisfyは「(人を)満足させる」の意味。人を表す主語がくると通例、be satisfied with～の形になり、「(人が)～で満足する」の意を表す。①は「満足」という意味の名詞、②は「満足させるような」という意味の形容詞、③は形容詞・現在分詞で「満足させるような」の意味。

(6) 「あなたは彼の忠告に耳を傾けたほうがよい。」

pay attention to～で「～に注意を向ける」の意味。①attendは「～に出席する、付き添う」、③attendantは「お供の、付き添い人」、④attendanceは「出席(者)、付き添い」の意味なので誤り。

(7) 「そのパーティーはとても楽しかった。」

lovelyは「楽しい、素晴らしい」の意味の形容詞である。語尾の-lyは副詞の語尾であることが多いが、形容詞を作ることもあるので間違えないようにしよう。なお、②lovingは「愛情のこもった」という意味の形容詞である。

(8) 「私はとても疲れていたのに、テレビを見ているうちに眠ってしまった。」

<fall+C>で「～(の状態)になる」の意味になり、本問の場合Cには形容詞がくる。③sleepy(眠い)も形容詞だが、動詞fallと結びついて「眠っている状態になる」という意味にならない。fall asleepで「寝入る」の意味。なお、④sleepingも形容詞としては「眠っている」の意味を表すが、a sleeping baby(眠っている赤ん坊)のように、直後の名詞を修飾する用法で用い、動詞の補語としては使えない。①sleepは「眠る(動詞)、睡眠(名詞)」の意味。

(9) 「彼女はきっと素晴らしい音楽家として成功すると思う。」

succeedは「成功する」「～のあとを継ぐ(※地位・財産を受け継ぐときにはsucceed to～、人のあとを継ぐときにはsucceed～)」の意味を持つ。ここでは「成功する」の意味なので、①が正解。succeedはそれぞれの意味によって名詞形・形容詞形が異なる。「成功する」の意味の場合、succeed>success>successfulとなり、「あとを継ぐ」の場合succeed>succession>successiveになる。

# 文法 (問題冊子p.7 ~ p.11)

## 1

### 解答

- (1) ② (2) ② (3) ① (4) ③ (5) ②  
(6) ② (7) ② (8) ④ (9) ④ (10) ②

### 解説

(1) 「その話を信じた人もいれば、信じなかった人もいる。」

このように言うとき、英語では Some..., others... という表現を使う。この文では、others は other people のことである。

(2) 『彼は試験に通るのでしょうか。』『通ると思いますよ。』

I hope は「よいことが起こると思っている」というニュアンス。例えば、Will it be fine tomorrow? (明日は晴れるのでしょうか?) という問いに対して I hope so. と答えれば、「(例えばピクニックに行く予定でもあって) 晴れるのがいいことであり、しかも晴れると思っている。」というニュアンスを伝える。もし同じ問いに I hope not. と答えれば、「(例えば日照りが何日も続いていて) 晴れないほうがいいことであり、しかも晴れないと思っている。」というニュアンスを伝える。ここは「彼が試験に通ることはよいことだし、しかも通ると思っている。」というニュアンスを伝えるべきだから I hope so. が正解。

(3) 「僕の友人の一人は京都にいて、ほかの友人は大阪にいる。」

特定の複数名詞のうち、どれか一つのもの (one) とそれ以外の残り全部のものについて述べるときは、One..., the others... という表現を使う。

(4) 「玄関のベルが鳴っているよ。行って誰だか見てきて。」

姿が見えない性別が不明な人を指す場合には it が用いられる。

(5) 「一人で暮らすのは寂しいだろう。」

「一人で (=alone)」を表すのは by oneself。① of oneself は「ひとりでに」、③ to oneself は「自分だけに、自分の心の中に」、④ in oneself は「それ自体では、本来」の意味。

(6) 「私はアメリカ車よりドイツ車のほうが好き

だ。」

ones は German cars の cars を指しており、ある特定の車のことでなく、車一般を指している。不特定の単数のものを指す場合は one、不特定の複数ものを指す場合は ones になる。

(7) 「その映画はおもしろかった。私たちは本当に楽しかった。」

enjoy は他動詞で目的語をとり、enjoy oneself で「楽しむ」の意味になる。

(8) 「あなたは今までにコアラを見たことがありますか。」「はい、以前にあります。」

前に述べられた普通名詞の反復を避けて、代名詞 one を用いる。I have seen one. = I have seen a koala.

(9) 「彼女の目は猫の目に似ている。」

代名詞を使わないで名詞で問題文を書き直すと、Her eyes are like the eyes of a cat. となる。このように <the + 名詞 + of...> という形で名詞が反復されると名詞を代名詞に置きかえて、that of... (名詞が単数形るとき) や those of... (名詞が複数形るとき) という表現を使う。問題文では、もとの名詞が the eyes と複数形だから those of... という形になる。

(10) 「この携帯電話は彼のものではなく、メアリーのものだ。」

but 以下の「メアリーのもの」にあたる部分をどう表すかが問題になっている。「メアリーのもの」は、Mary's cellular phone の意味だが、単に Mary's とする。これは名詞の反復を避けるためである。③のように所有格 Mary's のあとに one はこない。



## 2

## 解答

- (1) ① (2) ④ (3) ② (4) ④ (5) ④  
 (6) ① (7) ③ (8) ② (9) ③ (10) ③

## 解説

(1) 「ジョンは私の友人全員の中で一番足が速い。」

比較の範囲を表す場合、構成要素を表す複数名詞を伴えばof、所属する集団を表す単数名詞を伴えばinとなる。

(2) 「あなたの報告書は私のよりずっとよい。」

比較級を強調する副詞にはmuch, far, by far, even, stillなどがある。通常、veryやquiteは用いない。

(3) 「私は理科と同じくらい一生懸命に英語を勉強する。」

同じ程度であることを表す表現はas ~ asである。その時、~の部分には形容詞や副詞の原級がくることを確認しておこう。

また、「…ほど～でない」という否定文ならnot so ~ as...という形もあるが、肯定文ではso ~ asの形になることはあまりない。

(4) 「夫は私より5歳年上である。」

年齢差を表す場合は比較級を使う。①のelderは兄弟姉妹関係の長幼の順序を表し、thanを使った構文では用いられない。③のsenior toのあとには目的格になる。

(5) 「あなたの部屋は私の部屋の2倍の大きさだ。」

as ~ asの前に倍数を表す数詞をつけて倍数を表せる。2倍ならas ~ asの前にtwiceをつけ、3倍以上の場合ならthree timesのように、... timesをつければよい。

(6) 「富士山は日本で一番高い山である。」

比較級を使って、意味の上では最上級を表す表現。〈S is 比較級+than any other...〉の構文。「他のどの山よりも高い」という形で表す。any otherの後ろは通常、単数形が用いられる。

(7) 「彼はできるだけ多くのお金を稼ごうとしている。」

ポイントは同等比較の場合、「できるだけ～」は〈as+原級+as ... can〉となることだ。moneyは不可算名詞なのでmuchを使う。

(8) 「彼は私ほどお金を持っていない。」

moneyの後ろにthanがあるので、「より少ない」

の意味になる比較級を答える。ただし、moneyは数えられない名詞なので④fewerは使えない。したがって正解は②。

(9) 「彼のことを知れば知るほど、ますます彼のことが好きになった。」

〈the+比較級~, the+比較級...〉で「～すればするほどますます…」の意味。

(10) 「これは世界で3番目に長い川である。」

「～番目に…である」は〈the+序数詞(-thなど)+最上級〉という形で表す。

## 3

## 解答

- (1) ② (2) ② (3) ④ (4) ① (5) ①  
 (6) ③ (7) ① (8) ④ (9) ② (10) ③

## 解説

(1) 「彼が働いている会社は駅の近くにある。」

先行詞のThe officeは「場所」を表すので、関係詞は②のwhereを選ぶ。

(2) 「私たちが月に旅行する日がきつと来るだろう。」

関係詞の先行詞は必ずしも直前の語(句)とは限らない。この問題文でもcomeという動詞が先行詞にはならない。先行詞になるのは、名詞や代名詞である。そこでさらに前に目をやるとThe dayという名詞があり、これが先行詞である。

先行詞がThe dayで「時」を表す名詞であり、節内は主語や動詞、目的語など文の要素はすべて整っているので、②の関係副詞whenが正解。

(3) 「あなたがそこへ行かなかった理由を言いなさい。」

2文に分けて考えてみよう。

Tell me the reason.——①

You didn't go there for the reason.——②

②のthe reasonは名詞だからwhichにかえてfor whichにして結びつけると、

Tell me the reason for which you didn't go there.

となる。ここで、下線部は副詞の働きをしているので、先行詞が「理由」を表す関係副詞whyに言い換えが可能である。したがって、

Tell me the reason why you didn't go there.となる。

(4) 「髪の毛の長いかわいい女の子に偶然出会った。」

ここでは先行詞のa pretty girlとhair was long

の関係が a pretty girl's hair was long となるので関係代名詞の所有格 whose を使う。

(5) 「その事故は私たちがいた場所から50メートルほど離れた所で起きた。」

正解は場所を表す関係副詞の①where。なお、本問では先行詞が省略されている。

(6) 「彼らが私たちの学校で宇宙科学に興味のある生徒たちだ。」

空欄のあとに are interested と続くので、主格になる関係代名詞を入れるが、先行詞は school ではなく the students である。これは、文の意味と空欄のあとの are から判断できる。したがって正解は、人を表す主格の③who。

(7) 「ミュンヘンは私が長い間訪れたかった都市です。」

先行詞の the city は visit の目的語になっているので、①の目的格の関係代名詞を用いる。

(8) 「彼女は10年前の彼女とは違う。」

関係代名詞の what ~ は「~であること〔物〕」の意味。what she used to be [what she was] ten years ago で「10年前の彼女の状態」の意味。

(9) 「あなたが今聴いている歌をこれまで聴いたことがありましたか。」

本問の文を2つの文に分けて書くと、Have you ever heard the song? と You are listening to it now. である。空所に当たる to it に対応するには②to which でなければならない。なお、関係代名詞 that の前には前置詞を置くことができないので、④は間違い。

(10) 「このようにして私はその問題を解いた。」

「方法」を表す関係副詞は、先行詞を伴わずに用いるので③が正解となる。④は to のあとに動詞の原形がくるので誤り。

## 4

### 解答

- (1) ③ (2) ② (3) ④ (4) ④ (5) ④  
(6) ② (7) ④ (8) ③ (9) ③ (10) ①

### 解説

(1) 「日本にどのくらい滞在していらっしゃるのですか。」

How long が意味の上で現在までの時間の経過を尋ねているので、ここでは現在完了形の③が正解である。

(2) 「おお、マイク、きみはいつ家に帰ってきた

んだい。」

現在完了形は過去を表す副詞とともに使えない。本問では when が「過去のいつか」ということを問う疑問副詞であるので、過去形の②が正解。

(3) 「ヨウコは一日中小説を読んでいる。いつになったら読むのをやめるのかしら。」

all day (一日中) と継続期間を表す語句があり、続く文に I wonder when she will stop reading. とあることから、今でも続けていることがわかるので、現在完了進行形を選ぶ。動作を表す動詞は have [has] been ~ ing で「継続」「ずっと~している」の意味を表す。したがって正解は④。

(4) 「明日、富士山に登れば私は3回登ったことになる。」

明日、富士山に登った段階での経験を述べる文だから、未来完了形の④がふさわしい。

(5) 「私の祖父は、医者にかかったときにはすでに、病気になって1週間がたっていた。」

when he saw the doctor (医者にかかったとき) は過去のある時点。その時すでに1週間病気になっていたのだから過去完了形の④が正しい。

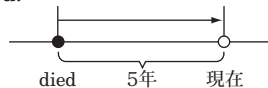
(6) 「私は切符を買いに駅に行ってきたばかりだ。」

I've (=I have) のあとなので過去分詞形がくる。したがって正解は②。have been to ~ には「~に行ってきたところだ」という完了の意味と「~に行ったことがある」という経験の意味があるが、ここでは前者の使い方。

(7) 「その偉大な芸術家が死んで5年になる。」

these five years は「この5年の間」という意味で「継続」を暗示している。「亡くなっている」という継続状態を表現するのだから、現在完了形を用いて has been dead にする。このほかに「…して~年〔月〕になる」を表すのは <It is [has been] ~ since S+V...> で、Vには過去形がくる。問題文を書きかえてみると、

It is [has been] five years since the great artist died.



となる。

(8) 「頭痛は治りました。もうだいじょうぶです。」

「頭痛が治って、今はもう痛くない」のだから

現在完了形を用いる。なお、be goneで「なくなる」という完了の意味を表すが、②はそれがさらに現在完了形になっているので誤りである。

(9) 「私はたった今昼食を終えた。」

just now (たった今) に注意しよう。これはa little time ago (ほんの少し前) の意味で、過去時制で用いる。

(10) 「初めて日本に来たときに、どんな都市に行きましたか。」

「初めて日本に来たとき」という過去の一時点のことを聞いているので、過去形にする。

## 5

## 解答

- (1) ③ (2) ④ (3) ① (4) ② (5) ①  
(6) ① (7) ② (8) ① (9) ② (10) ②

## 解説

(1) 「トムは自分の名前が看護師に呼ばれるのを聞いた。」

S+hear+O+Cの第5文型で、his nameとcallは「名前が呼ばれる」と受け身の関係なので、過去分詞の③calledが正解。

(2) 「彼は私に黒板をふくように言った。」

「…に～するように言う〔命じる〕」の意味は〈tell+人+to～〉の形で表す。「…に～するように頼む」の場合は〈ask+人+to～〉の形になる。

(3) 「私はトムに正直であってほしいと思う。」

「私は正直になりたい。」ならば、I want to be honest.となるが、選択肢にはTomという語があるので、「トムに正直であってほしい」と考えて、〈want+O+to不定詞〉の形を考える。

(4) 「ジェーンは、私に昨日学校を休んだ理由を尋ねた。」

ask+O(人)+why～で、「なぜ～かを(人)に尋ねる」という第4文型。したがって、正解は②。

(5) 「私は空港に何時に着くかをあなたにお知らせします。」

〈使役動詞let+O+動詞の原形〉の第5文型。let+O(人)+know～で「(人)に～を知らせる」の意味。したがって、①knowが正解。

(6) 「私は誰かが公園で歌を歌っているのが聞こえた。」

ここでは知覚動詞の構文の〈hear+人+現在

分詞〉の形があてはまる。〈人+現在分詞〉の部分は主語と述語動詞の関係になり、人がある行為を行っている最中であることを示す。またその関係が受け身である場合には過去分詞が用いられる。

(7) 「問題は彼女が真実を述べているかどうかである。」

S+V+Cの第2文型。「～かそうでないか」はwhether～or notで表す。したがって、正解は②。

(8) 「彼が上に上がっていくのが見えましたか？」

(6)で述べたように、ここでも知覚動詞の構文〈see+O+現在分詞〉の形があてはまり、「Oが～しているの見える」という意味を表す。

(9) 「彼は医者であるらしい。」

〈S seem(s) to不定詞〉= 〈It seems that S+V〉「Sは～であるらしい」の意味。ここでは、It seems that he is a doctor.と書き換えられる。

(10) 「マイクは昨日コンピュータに問題があったようだ。」

〈appear(s)+to不定詞〉「～するように見える」という意味。to不定詞の部分で過去の事柄について述べる場合は、完了形不定詞(to have+過去分詞)を用いる。したがって、②が正解。

# 文構成 (問題冊子p.12 ~ p.13)

1

解答

[A]

- (1) (It) (was) (difficult) (for) (him) to solve this problem.
- (2) It (is said) (that) he (invented) (this) (machine).
- (3) The boy (I) (met) (yesterday) (wanted) (to be) a teacher.
- (4) The man (left) (the company) in the morning, (never) (to) (return).
- (5) I (thought) (it) my duty (to tell) (you) (the truth).

[B]

- (6) They left early, (so) (they'll) (be) (able to) (get) good seats.
- (7) He (felt) (so) (uneasy) (that) (he) called his teacher.
- (8) Anyway, clean your room (in) (case) (your father) (gets) (angry).
- (9) (She) (made) (it) (clear) (that) she had nothing to do with the incident.
- (10) I would like you (to) (return) (the CD) (I) (lent) you the other day.

解説

[A]

(1) <It is+形容詞+for+人+to+動詞の原形～.>「人が～するのは…だ。」の表現に気づくかどうかポイントだ。この表現の〈for+人〉の部分はその後ろの〈to+動詞の原形〉(to不定詞)の意味上の主語である。

itはto～以下を指す形式主語であることにも注意しよう。つまり、この問題でのItは、to solve this problemを指す。

(2) 日本語が「Sが～すると言われている」となっている場合、英文の形としては2種類が考えられる。S is said to～とIt is said that S～だ。本問では英文の文頭にItが与えられているので後者だとわかる。したがってIt is said thatで始める。次にthat節に「彼がこの機械を発明した」he invented this machineを並べればよい。

(3) 与えられた日本文の構造を分析して、修飾関係を整理してみよう。

少年は先生になりたがっていた。

↑

昨日私が会った

したがって関係代名詞を用いれば解けることがわかるが、語群には関係代名詞がない。そこで関係代名詞の省略を考えよう。The boy whom I met yesterdayのwhomは目的格なので、省略できるのである。

(4) まず「その男は朝に会社を出た」の部分を考えてみると、The manが英文に与えられているので、The man left the company in the morningとなる。次に残った語句より、never to returnを組み合わせたことができたかどうかポイント。to不定詞を否定する場合、否定語はtoの直前に置かれる。

このようにto不定詞が「結果」を意味している場合、to不定詞までの部分をまず訳し、「その結果」としてto不定詞以下を訳す。これを「目的」のように後ろから「～のために」と訳し上げると意味をなさない。

(5) 与えられた日本文と語群のthoughtから判断して、<think+O+C>の構文を用いて、「OをCだと思う」という英文を作るのだと見抜くことができるかがポイントだ。日本語では主語の「私は」が省略されているが、それを補って考えてみると、

私は 真実をあなたに話すことが 私の義務だ と思った。  
S O C V

となり、目的語の部分が長くなる。そこで形式目的語構文を作るために、itとthatかtoを語群の中に探すと、itとto tellがあるので、

I thought it+C+to tell～の形を使えばよいとわかる。

またto tell以下だが、tellが二つの目的語をとって<tell+O<sub>1</sub>+O<sub>2</sub>>の形で「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を話す」の意味となるので、to tell you the truthになることに注意したい。

[B]

(6) 「よい席が取れるだろう」はthey'll be able to get good seatsだから、ポイントになるのはThey left earlyとのつながりである。仮に<because S'+V'>の形で「～から」に当たる部分を表現する。Because they left early, they'll



be able to get good seats.とすれば正しい英文であるが、becauseをthey'llの前に置いたのでは意味をなさない。それに対してsoは、前に書かれた内容を受けて「だから～」に当たる部分を導くから、they'llの前に置くと意味が通じる。したがってbecauseが不要。

(7) 日本文に「とても～なので…」とあるが、語群中にはbecauseなどの理由を表す接続詞がない。そこでsoやsuchがある点に注目しよう。〈so～that+S+V〉や〈such～that+S+V〉で「とても～なので…」の意味となるのである。

注意したいのは、soのあとには形容詞か副詞が、suchのあとには名詞(句)がくるということである。さて、本問の場合はどうだろう。

「不安に感じる」はfeel uneasyと表現する。「彼はとても不安に感じたので…」の部分英語にすると、He felt  uneasy that...となり、の中にはsoかsuchが入るが、uneasyは「不安な」という形容詞なのでsoが入る。したがってsuchが不要となる。

(8) 「とにかく部屋をきれいにしなさい」の部分は与えられているので、「お父さんが怒るといけないから」を英語にする。否定の目的を意味する「～するといけないから」は、〈in case S'+V' [should+動詞の原形]〉の形を用いて表すことができる。したがってin case your father gets angryとなり、doesn'tが不要となる。

(9) 「自分(=彼女)がその事件とは無関係である」の部分は英文として与えられているので、「～であることを明らかにした」の部分がポイント。「OをCにする」というときに用いるのがmakeで、〈make+O+C〉の構文をとる。Cの補語の部分には名詞か形容詞がくる。

本問では「～であることを(O)を明らかにした」とあるので、She made O clearとなる。

目的語(O)の部分に当たる日本語は「彼女がその事件とは無関係であること」となっているが、このように目的語が節や句になっているときには、形式目的語itを用いて、〈S+V+it+C+that節〉や〈S+V+it+C+to不定詞〉の構文を用いる。

本問でも目的語の部分に節になっていることから、〈S+V+it+C+that節〉の構文を用いればよい。したがってwhatが不要となる。

(10) 与えられた英語部分がI would likeで始まっている。would likeはwantより丁寧な表現で、

would like to～で「(できれば)～したいものだ」、〈would like+O+to～〉で「(できれば)Oに～してもらいたい」の意味となることを押さえておこう。したがってI would like you to return the CDで「きみにCDを返してもらいたい」の意味になる。

さて、「そのCD」を「先日(私が)貸した」が修飾するわけだが、節が名詞を修飾する場合に用いられるのが関係詞である。I lent you the CDの関係より、the CDを先行詞とし、目的格の関係代名詞that [which]を用いて、the CD that [which] I lent you the other dayとなるわけだが、語群中にあるthatを入れて並べかえると空所の数と合わなくなる。そこでthatが省略できないかを考えよう。先行詞のthe CDが関係代名詞節のlentの意味上の目的語になっているので、省略可能である。したがってthatが不要となる。

# 読解 (問題冊子p.14～p.19)

1

解答

- [A] (1) ④ (2) ①  
[B] (1) ③ (2) ② (3) ⑤

解説

[A]

(1) 明日に試験を控えているBの空所の発言に、Aは「大丈夫。きつとうまくいくよ。」と励ましている。よって空所には心配そうな内容の④「すごく緊張しているよ。」が最適。①「私は成功を確信しています。」、②「簡単だと思うんだ。」、③「面接は好きなんだ。」はいずれも自信がありそうな発言なので不適。

【訳例】

A: きみの就職面接はいつ?  
B: 明日だよ。すごく緊張しているよ。  
A: 大丈夫。きつとうまくいくよ。  
B: そうだといいけど。

(2) AがBを食事か映画に誘っているが、Aは空所のあとでもう一度どちらがいいかBに尋ねている。よって自分の希望を答えている②「いや、家にいたいよ。」、③「映画を見に行こう。」、④「食事に行きたいよ。」は不適。

【訳例】

A: 食事に行くか映画に行くかしない?  
B: どちらでもいいよ。きみに任せる。  
A: でも、どちらの方がいい?  
B: うーん、じゃあ食事はどう? お腹が空いているんだ。

[B]

(1) Nancyの空所の言葉を受けてSimonはPaulの髪の特徴を説明しているのだから、ここにはPaulの外見の様子を尋ねる③「彼はどんな感じの人だっけ?」が入る。①「彼は何歳?」では、後ろのSimonの発言につながらない。

(2) 空所を含むSimonの発言の直前でNancyは「Paulは背が高い?」と尋ねている。それに対してSimonはまず「いや」と否定しているのだから、続く発言としては②「彼は標準的な背の高さだよ。」が最適。

(3) 空所の直前でSimonがPaulについて「いつ

も読書をしているからね。」と言っていることから、⑤「それでよく彼を図書館で見かけるのね。」が最適。④「彼はどんな種類の本を書くの?」ではSimonの発言につながらない。

【訳例】

サイモン: 僕の友達のパールを知っている?  
ナンシー: 彼はどんな感じの人だっけ?  
サイモン: うーん、金髪で巻き毛だよ。  
ナンシー: 彼は背が高い?  
サイモン: いや、高くないよ。彼は標準的な背の高さだよ。  
ナンシー: わかった。彼はメガネをかけているよね?  
サイモン: その通り。彼はいつも読書をしているからね。  
ナンシー: それでよく彼を図書館で見かけるのね。  
サイモン: うん、彼は来年、医師になる試験を受ける予定さ。  
ナンシー: あんなに一生懸命勉強しているんだから、彼は合格すると思うわ。